



●やめっこ未来館
保育所と地域子育て支援センターを併設した複合施設。子育ての相談支援を行い、子育て親子の総合的な交流拠点となっている。

躍進 福祉

つくる

安心を

躍進 防災

●平成 24 年九州北部豪雨
平成 24 年 7 月 13 日明方から 14 日の昼にかけて八女市の降雨量として観測史上 1 位の豪雨が発生。道路や橋は損壊し、かつてない大災害となった。



03



02

●INTERVIEW VOICE

ひとりではない子育てを

子育てネットワークやめ代表
大坪 陽子さん

子どもが生まれて半年でコロナが流行し、子育てもコロナも初めて。私は八女出身ではないので周りに友達がいないので、子育てを相談できるママさんと知り合う機会としてサークル活動をやってみたいという気持ちがありました。月齢の近い子どもだと悩みが似てるんですね。ママ同士は年齢がバラバラでもつながり合うことができます。八女市の子育て環境はとても充実していて、「やめっこ未来館」は親子が交流できるみらい広場、子どもを預けることができるファミリー・サポート・センターと、時預かりがあります。先生や孫まで育てたベテランママさんなど信頼できる第三者の手を気軽に借りられる環境は本当にありがたい。私はそこで救われました。まだまだ周りには孤独で育てている方や情報を受け取れていない方がいます。自分が積極的に関わることによってサポートがあることを伝え、お世話になった恩返しができるかと思っています。

●INTERVIEW VOICE

「となりを守る」が八女を守る

八女市消防団長
山下 繁敏さん

最も記憶に残っているのは平成 24 年 7 月の九州北部豪雨。当時私は副団長で八女市の消防団はまだ合併する前でした。黒木・星野では亡くなった方もおられ、忘れてはならない災害です。災害当日、急いでポンプ車で一軒一軒見回り、とにかく一人暮らしの方、高齢の方を避難させてくれと呼びかけました。川はうねって浸水は高みを増す中、玄関をこじあけての救出、逃げ遅れた方の誘導に必死に動いたことを鮮明に記憶しています。大災害は一生に一度あるかないかといわれていますが、今では毎年のように各地で起きています。平成 27 年に消防団は一つになり、地域を知り尽くした各地域の支団長が中心となって広い八女市を守っています。自助、共助、公助とありますが、まずは近所が一番。市民一人ひとりが隣近所をしっかりと見て、消防団員が現場をしっかりと守る。それが必ず組織として大きな八女市の安全安心に繋がるものだと信じています。